

# 学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日  
至：2019年3月31日  
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾  
麻生建築&デザイン専門学校

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について .....	- 4 -
2. 基準項目について .....	- 5 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生建築&デザイン専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長
業界関係者	及川 雅史	株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課 課長
業界関係者	高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役
業界関係者	松田 淳司	株式会社 ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 第一制作部長
業界関係者	横山 猛	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 業務部 理事
有識者	井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表
有識者	植田 義孝	ユーデザイン設計 代表
有識者	太田 昌宏	愛知産業大学 准教授
有識者	照井 善明	特定非営利活動法人 FUKUOKA デザインリーグ 理事
高校	太田 博文	福岡県立福岡工業高等学校 校長
地域住民	川藤 勝治	博多区博多駅南第4区自治会 自治会長
卒業生	上野 直哉	H30年度 建築工学科 卒業
保護者	和田 雄二	建築工学科3年 和田 飛雄馬 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年 6月13日（木）14：30 ～ 15：30

場 所：麻生塾福岡キャンパス 10号館 4階 1041教室

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

### 5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

## II. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 【評価結果・取組み状況】

- ・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的、育成人材像とディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの明文化を行った。またそれに伴って次年度のパンフレット、募集要項、学生便覧、Webへの掲載とともに教職員会議等各会議体、講師会、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会等にて共有していく必要がある。
- ・正試験重視の評価方法を策定し、成績評価実施要領を整備した。学生にとっては、日常の努力が評価につながるため、モチベーションの向上につながった。
- ・リメディアル教育として、新たに開講した検定ゼミ（検定試験受講者対策補講）の効果として、参加した学生の多くが検定に合格し、自己の学習の成果を認識させることができた。

#### 【委員からの意見】

- ・3つのポリシーが見直され明文化できたため、今後は学内外の周知・共有が重要。
- ・リメディアル教育として、ASOドリルや検定ゼミが実施され充実をはかる努力がうかがえる。

**【改善の方策】**

- ・パンフレット、募集要項、学生便覧、Webへの掲載とともに教職員会議等各会議体、講師会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等にて共有していく。
- ・成績評価システムの品質向上のため、教育課程編成委員や教職員など関係者より意見を集め、ブラッシュアップに努める。
- ・学生数の増加と学生の多様化に対応し、今後さらに理解しやすい工夫と学修の促進ができるリメディアル教育について分析を進め、必要に応じ新たな取り組みを検討する。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果：  適

**【評価結果・取組み状況】**

- ・学校の教育理念等を明文化し、入学時の導入教育で学生便覧を通じて周知を行い、確認テストで理解度を把握している。
- ・一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材=グローバルシティズンを育成する教育を通じて、麻生塾の学生としてふさわしい考え方を育てている。

**【委員からの意見】**

- ・教育理念や教育目的、人材育成についてルールブックやホームページ、学生便覧などの教職員・学生・保護者が共通認識できるよう積極的に情報開示されている。

**【改善の方策】**

- ・引き続き職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。
- ・グローバルシティズン教育を通じて継続的に目指す人材像を育てていく。
- ・保護者会等の機会を活用し、理解の促進を図る。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・教職員対象のキックオフミーティングにて公表され方針や目標が共有されている。
- ・責任者会議・教務会議等の実施により組織的に運営され、各種規定・マニュアルを整備した適切な運営体制を整えている。
- ・校務分掌(行事・検定・授業などの業務上の役割分担表)・職務分掌(業務の内容および責任・権限)を作成し運営されている。

【委員からの意見】

- ・学校の運営方針や事業計画は教職員に情報共有できていると理解できる。
- ・各種規定についても適正に整備運用されている。
- ・学校業務を支援する事務体制が必要ではないか。

【改善の方策】

- ・事務職員の業務を洗い出し、質の向上を検討する。
- ・学校業務を支援する事務体制の拡充について検討を進める。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・カリキュラム・シラバス・コマシラバスは作成、明文化のうえ共有を図っている。
- ・カリキュラムについては、カリキュラム会議・教育課程編成委員会において検討し、意見評価を反映した見直しを図っている。
- ・授業アンケートを通じ教育の評価として測定し、意見も参考に取り入れながら改善を図っている。

【委員からの意見】

- ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、カリキュラムの定期的な検証が必要。
- ・科目担当者が主体となって、他の専門教員の意見を聞きながら、シラバス作成を行うとよい。
- ・教員間でのピアチェック体制により成績の適正な評価と管理が必要。
- ・状況によっては教員研修会を開き、情報交換をすることも重要と考える。

【改善の方策】

- ・カリキュラム会議の時期、頻度を再度検討し、定期的な検証につなげる。
- ・教員間のチェック体制を設け、情報交換の機会を拡充する。また、必要に応じて授業観察や研修等の計画を立案し改善に結びつける。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・キックオフミーティングで示された各目標を共有し、全員の共通認識としている。
- ・各目標の担当分担を行い、各分野・科目において個別に具体的な目標を設定し、組織的に取り組んでいる。
- ・就職率の向上について情報共有会議を行い、適宜学生の指導に反映しており、就職率および就職活動の質ともに成果を上げている。

【委員からの意見】

- ・学生数増加に伴い一人一人の学生への対応時間に限りが出てくるため、より丁寧な対応が必要。
- ・一人でも退学しないような退学防止策などに全学で取り組んでいく必要がある。
- ・学生には目標を持たせることが大切であり、コンペなどに挑戦させることはとても良いことと考える。

【改善の方策】

- ・進学や資格の取得など、卒業後の目標を具体的に考えるようなキャリア教育を組み込む。
- ・各種コンペに積極的な参加を促し、客観的に成長を実感できる機会の拡充を検討する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適合

【評価結果・取組み状況】

- ・状況に応じて保護者や関係部署と密接に連携し、支援を行える協調体制を整えている。
- ・学生の自主性を尊重した課外活動・サークル活動の支援を行い成長の機会を提供している。
- ・キャリアサポート関連の有資格者、スクールカウンセラーを配置し、多様な学生を支援する体制を整えている。

【委員からの意見】

- ・サポートセンターと協力しながら、学生をバックアップしていくことは学生にとっても心強い。
- ・多様性に応える学生支援体制をしっかりと構築していくことは重要である。

【改善の方策】

- ・学生数・クラス編成の変化に対応した修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制の検討を継続して実施していく。
- ・キャンパスライフサポートセンターとの連携をより図り、多様性に対応したより良い支援ができるよう運営していく。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・教員は法令が定めた教員要件を満たし、必要な人員を適切に配置している。
- ・講義室をはじめとした教育施設の面積は法令が定めた面積を確保している。
- ・設備機器・教育備品・教具について固定資産管理規定、設備備品管理表にて管理されている。

【委員からの意見】

- ・学生にとってよりよい環境で学習できることは、学生の満足度向上にもつながる。
- ・業界の技術革新は日進月歩であり、業界の人材ニーズに合った学生の育成が必要である。
- ・建築業界では今後BIMが著しく進展すると考えられ、BIMを使える技術者、またそれに伴う設備環境の充実が必要となる。
- ・職業体験、インターンシップは重要なことではあるが、受け入れる会社と送り出す学校との事前調整が重要と思われる。

【改善の方策】

- ・図書館に所蔵している専門分野の図書の拡充を図る。
- ・インターンシップ先企業との関係書類の取り交わしを含む、規定のマニュアルに沿った事前・事後の調整とサポートを着実に運用していく。
- ・採用内定先企業意見を参考に必要設備の検討を行い、計画的な設備投資計画を作成する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・募集要項にアドミッションポリシーを明示し、求める資質・意欲に沿った学生を募集している。
- ・募集活動を通じ業界に貢献できる人材と入学希望者との mismatches の抑制に努めている。
- ・入学者選抜は、選考基準を定め、適正に行えている。
- ・学生納付金について定期的に検討され、妥当なものとなっている。

【委員からの意見】

- ・入学選考などにおいて、適切な選考基準が必要である。
- ・教育設備や教員体制による適切な定員数について定期的に確認する必要がある。

【改善の方策】

- ・カリキュラム会議・学科検討会議の中で、設備環境・授業形態にあった適正な定員であるか検討し、継続的に見直しの機会を設ける。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・定員充足率、入学者比率は、改善傾向であり、収入と支出のバランス、貸借対照表からみた財務基盤は安定しているといえる。
- ・事業計画書において中期ビジョンを定め、部門長が予算管理表にて定期的に確認し、計画に従って妥当に執行している。
- ・部門長により月次での予算管理が行われている。

【委員からの意見】

- ・安定的な財政基盤が構築されており、財務情報について公開されている。

【改善の方策】

- ・固定資産管理規定に沿って適切な財務管理を進め、月次での予算管理の実施を継続していく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・校地・校舎・講義室・実習室の面積等、教員要件について法令・専修学校設置基準を遵守している。
- ・法令を遵守しているが、学生数の増加に伴い認可時の教室設定では飽和状態になりつつある。
- ・個人情報保護規定、ハラスメント防止規定の文書を配布し、規定に従い活動している。

【委員からの意見】

- ・法令に基づいた教室設備の充実など、学生数に応じた確認が必要である。

【改善の方策】

- ・教室設備の充実など学生数に応じた対応が必要であり、継続的に学科検討会議内で検討し、適正化を図っていく。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・自己点検・評価を実施のうえ各項目に対する改善点を洗い出し、教務会議にて課題の共有を図っている。
- ・自己点検・評価実施後の結果に基づいて改善計画を策定・実施し、フォローアップを行なっている。
- ・自己点検・評価結果の公表を、ホームページで外部に向けて公表している。

【委員からの意見】

- ・自己点検評価の実施により、改善計画がなされている。
- ・自己点検委員が主体となって改善体制を構築し全体への理解促進を図ることが求められる。

【改善の方策】

- ・今後も自己点検委員を中心として、自己点検・評価活動の精査と改革・改善体制の充実を図る。
- ・自己点検活動への理解促進を進め、教育の質を保証する仕組みを継続していく。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・学校・学科・サークルを通して関係業界である行政・企業・地域・関係団体と連携を図りながら、社会的な活動を行っている。
- ・ものづくり科が福岡県警察博多警察署と博多まちづくり推進協議会と防犯ブザーのデザインと配布活動を実施している。
- ・本校生で構成される建築サークルにおいて、福岡建築士会のまちづくり活動を実施している。
- ・ボランティア委員会を設置し、学生にボランティア活動を推進している。

【委員からの意見】

- ・地域でのボランティア活動が行われ地域貢献がなされていると理解できる。

【改善の方策】

- ・今後も視野を広げ新しい活動を進め、業界・地域からも期待されている専門学校グループの特性を活かした学校を目指す。また、学校グループの枠を超えた全体での取り組みも積極的に実施していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・留学生を担当する担任と国際交流センター・就職グループなど関連部署と連携を図り、生活面・就職活動の支援を行っている。
- ・海外留学支援制度についてパンフレットおよび担任からの案内にて学生へ周知している。

【委員からの意見】

- ・今後も留学生の学習支援・生活指導などの対応と整備充実を図ってほしい。

【改善の方策】

- ・現状では留学生・留学ともに数が多くはないため、国際交流センター・就職グループなどと連携し、情報の共有を進めることで教務全体での理解力およびサポート力を高めていく必要がある。
- ・学習支援・生活指導などの面においても対応と整備充実を図ってほしいとの要望もあり、上記内容と合わせて学内にて推進していく。

以上